P－12　九州歯科大学の個別入試およびAO入試に関するアンケート調査結果

○豊野　孝

九歯大・解剖学

九州歯科大学では平成27年度個別入試から総合問題が導入されている。本学でのさらなる入試改善を行うためには、個別入試およびAO入試における入試実態および問題点を把握する必要がある。そこで、本研究では新入学生を対象として、本学入試に関するアンケート調査を行い、経年的な変化を調べた。

平成25年度から27年度入学の歯学部１年生(歯学科、口腔保健学科)を対象として、無記名のマークシート方式による調査を行った。個別入試、AO入試および総合問題の難易度(易しい１～普通３～難しい５)について５段階評価で調査を行った。

個別入試の難易度の平均点は、歯学科では2.88(H25)、2.74(H26)、2.61(H27)で、口腔保健学科では3.29(H25)、3.62(H26)、3.39(H27)であった。AO入試の難易度は、歯学科では2.91(H25)、3.47(H26)、3.17(H27)で、口腔保健学科では3.00(H25)、3.80(H26)、3.86(H27)であった。歯学科の個別入試において、経年的に難易度の低下が認められた。口腔保健学科のAO入試において、経年的に難易度の上昇が認められた。総合問題の難易度については、歯学科では容易群(易しい、やや易しい)が49%で、困難群(難しい、やや難しい)が22%であった。一方、口腔保健学科では容易群が23%で、困難群が34%であった。

平成27年度から個別入試において総合問題が導入されている。しかしながら、両学科ともに個別入試の難易度の上昇は認められなかったことから、総合問題の導入は個別入試の難易度に影響を与えなかったと推測された。

P－13　九州歯科大学における教育力評価のための教育実態(学習環境)調査および教育成果(教育満足度)の検証

○豊野　孝[1,6]、吉野　賢一[2,6]、東　泉[3,6]、片岡　真司[1,6]、角舘　直樹[4,6]、自見英治郎[5,6]、日高　勝美[2,6]

九歯大・[1]解剖学、[2]口腔保健、[3]応用薬理、[4]総合教育、[5]生化学、[6]大学自己評価部会

本学の教育力評価のためには、講義、実習、大学教育に対する満足度、および学習環境(図書館、IT関係)の満足度など、教育成果および教育実態の検証を行う必要があると考えられる。そこで本研究では、上記項目の検証をアンケート調査により行った。

歯学部学生を対象として、無記名のマークシート方式による調査を平成22年度から26年度まで年度毎に行った。講義、実習、大学教育に対する満足度、学習環境(図書館、図書館の図書、コンピューター演習室、本学パソコン)の満足度(低い１～普通３～高い５)について５段階評価で調査を行い、経年変化を調べた。

講義、実習、大学教育の満足度については、平成23年度以降、全項目において満足群(高い、少し高い)の割合の増加が認められた。不満足群(少し低い、低い)に関しては、全項目において平成23年度から25年度までその割合の減少が認められた。学習環境の満足度において、図書館、および図書館の図書については、平成24年度以降、両項目ともに不満足群(あまり満足していない、全く満足していない)の割合の減少が認められた。コンピューター演習室、および本学パソコンについては、平成24年度以降、両項目ともに満足群(かなり満足している、大変満足している)の割合の増加が認められた。

九州歯科大学では平成25年度にパソコンの更新が行われており、このことがコンピューター演習室、パソコンの満足群の割合の増加につながったと推定された。平成23年度以降、大学教育の満足群の割合の増加も認められることから、このような学習環境の満足度の増加が、本学教育の満足度の増加の一因となっている可能性があると考えられた。